

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

病害虫の越冬量を低下させ、来春以降の発生抑制につなげましょう。

特に注意！（1月）

水稲：ジャンボタニシ



注) 本写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

特徴

- ◆ 成貝の殻高は2～7cm程度。

防除のポイント

- ◆ 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。土中の浅いところ（6cm未満）に潜って越冬することが多いため、耕うんを浅くする。その際、トラクターの走行速度を遅く、ロータリーの回転を速くする。
- ◆ 耕うん機等の土に貝が付着することがあるので、ほ場間を移動する際はしっかり土を落とす。
- ◆ 本貝には人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいる場合があるため、ゴム手袋やゴミ拾い用 Tongue 等を使用し、素手では扱わないようにする。もし、素手で触った場合には、石けんで手をよく洗う。

カラー技術資料「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）から稲を守りましょう！」
についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

バラ科果樹類：
クビアカツヤカミキリ

防除のポイント

- ◆ 被害が大きい樹は伐採し、破碎（チップの厚さは10mm以下を目安）または焼却する。すぐに処分できない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。
- ◆ 伐採後の切株もなるべく抜根し、破碎または焼却することが望ましい。伐根できない場合は切株をビニルシートや肥料袋等で覆う。さらに根部まで全てネットで2重に覆い、内部の幼虫の羽化後の分散を防ぐ。
- ◆ 処分に伴い運搬する場合や焼却する場合は、市町村の指示に従う。（本文1ページ参照）。

次回の情報は1月下旬頃にお知らせします。

◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

水稻（越冬対策）

縞葉枯病（ヒメトビウンカ）



縞葉枯病
(ひこばえでの病徴)

特徴

- ◆ 縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介されるウイルス病である。
- ◆ 発病したひこばえをヒメトビウンカが吸汁して、保毒する。

防除のポイント

- ◆ ウイルスに感染したひこばえは、本病の伝染源となる恐れがあるので、早めに刈り株をすきこみ、ひこばえを処分する。
- ◆ 冬～春期に畦畔の雑草を刈り取り、ヒメトビウンカの越冬密度を下げる。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ

処分に伴う運搬について

- ◆ 本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、**処分のための運搬であっても市町村の指示に従うこと。**
- ◆ 市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆する等の**分散防止措置を実施の上**、現地より運搬して焼却する。

野焼きについて

- ◆ 廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、**野焼きは原則として禁止**されている。
- ◆ 一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。
- ◆ **例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。**

●詳細は、技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参照
http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/kubiaka2112V2.pdf

トマト・ミニトマト（施設栽培）

すすかび病・葉かび病



被害葉※ 表（左）

裏（右）

特徴

- ◆ 日照不足で樹勢が落ちると発生しやすい。
- ◆ すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 多発すると防除が困難であるため、予防的散布が重要である。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、**ダコニール1000**、**ベルコートフロアブル**等を散布する。発生を認めたら、**トリフミン水和剤**、**ファンタジスタ顆粒水和剤**、**ニマイバー水和剤**等を散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
[\(http://www.jppn.ne.jp/osaka/\)](http://www.jppn.ne.jp/osaka/)

●農薬を使用する際は、登録内容を確認してください。

灰色かび病



特徴

- ◆ 施設栽培で発生が多い。20℃程度の多湿時に発生が多く、花がらや果実のがくから発生することで、果実にも被害が生じる。

防除のポイント

- ◆ 発生が見込まれる時期に、バルコートフロアブル、ダコニール1000等を散布する。発生を認めたら、ファンタジスタ顆粒水和剤、ロブラール水和剤等を散布する。

なす（施設栽培）

アザミウマ類



特徴

- ◆ 苗からの持ち込みにより本ほでの発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆ 発生が見られたら、アフーム乳剤、ファインセーブフロアブル、ベストガード水溶剤などを散布する。
- ◆ 育苗期には、モベントフロアブルなど、育苗期後半～定植当日に登録のある薬剤を施用する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布する。
- ◆ 雑草はアザミウマ類の生息場所となるため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

根こぶ病



特徴

- ◆ 定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

防除のポイント

- ◆ 発病した株は、こぶを落とさないように根ごとほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 収穫作業は未発生ほ場から行ない、汚染ほ場を拡大しない。汚染ほ場での作業後は農機具、履き物を洗浄する。

菌核病



キャベツでの発病

特徴

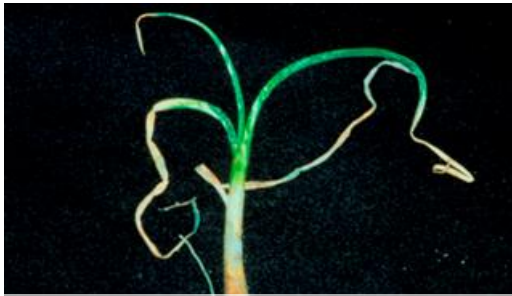
- ◆ 冬期、温暖多雨で発生が多くなる。
- ◆ 黒いネズミの糞のような菌核が土中に残って伝染源になる。

防除のポイント

- ◆ 発病株は取り除き、菌核を落とさないようほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 発生が予想される場合は、結球開始期からベンレート水和剤（キャベツ、はくさい）、ロブラール水和剤（キャベツ、はくさい）等を予防的に散布する。

たまねぎ

べと病



べと病（越年罹病株）*

特徴

- ◆ 育苗時や定植後に、被害残さ等から感染し、越年罹病株として1～2月に病徴を現し、周辺への伝染源になる。越年罹病株の葉色は、光沢のない淡黄緑色で、生育も劣る。

防除のポイント

- ◆ 越年罹病株は取り除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤、ダコニール1000、ランマンフロアブル等を予防的に散布する。